

西小学校学力向上推進計画

令和6年度報告

1. 目 標 児童一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む
 ～ 学校・家庭・地域・行政の連携をととして ～

【学推の目ざす児童像】

- ・主体的に学習に取り組み、主体的・対話的で深い学びができる。
- ・学びにむかう集団としての基本姿勢や生活習慣を身につける。
- ・基礎的な知識・技能を習得し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身につける。

2. 基本方針

- 1 県学力向上推進主要施策「学力向上推進プロジェクト5か年プラン・プロジェクトⅡ
～学びの質を高める授業改善・学校改善～」及び「伊江村学力向上推進要項」を踏まえ、本校の課題を解決するための取組や特色ある取組を推進する。
- 2 新たな時代へ対応するための「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業改善を推進していくことで、自らの人生を主体的に切り開いていくことができる「確かな学力」の向上を推進する。
- 3 「授業改善」の取り組みを支える学力向上の取り組みとして、3つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」から、5つの具体的な方策を通して、授業改善・学校改善を推進し、本校児童に「新たな時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育み、学力の向上を推進する。
- 4 県の施策「学力向上PPⅡ」をもとに、学校・家庭・地域・行政機関が一体となって具体的な取り組みを行い「確かな学力」の向上を推進する。

3. 推進のための視点

◎児童一人一人が生き生きと目を輝かせ、試行錯誤し、学び合い、うなずきがある授業の推進のためには

- 1 全ての児童を高めたいという教師の情熱
- 2 使命感による事前の教材分析・解釈に裏打ちされた指導力があってこそ成り立つ。

具体的な授業改善に当たっては、教師、児童、教材の3つの視点からこれまでの実践を見直し改善策を講じる必要がある。

視点1 「自己肯定感の高まり」

教師については、教材分析力や発問、板書、児童への接し方等の指導技術、資料・教具の効果的な使い方、児童の発達の段階に応じた指導方法の在り方など、授業構想力が基盤となる。

【教師の同僚性、OJTの活性化により推進していく】

視点2 「学び・育ちの実感」

児童については、自ら学び、自ら追究する学習態度の形成、発表や説明の仕方ノートの手書き方などの学習方法の習得、教具の使い方、児童相互の交流など、実践を通して学習に向かう態度を育成することが基盤となる。

【伊江島スタンダードを基軸に授業を展開し、学習面からの育ちの実感を見取る。（振り返りの充実）】

視点3 「組織的な関わり」

教材については、児童の実態や発達の段階、日常生活との関連や地域の実態に応じた教材開発、児童が学習に意欲的に向き合える内容や環境の整備、教材の配列の工夫など、全てに合致することが基盤となる。

【OJTの推進、校内研と連動したカリキュラムマネジメントの構築、積極的な地域人材の活用】

「学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ（PPⅡ）」より

4. 取組の重点

授業の充実や授業改善を推進していくにあたって、本校の取組の重点項目を設定し、各教科や校内研修と連動し、学力向上の推進に努める。

◎共通実践事項 1

☆質的授業改善を基軸に「学びに向かう児童」の育成を図る。

【質的授業改善にむけて】

- ・毎時間の授業において「身につけさせたい力の明確化」（何ができるようになるのか）
- ・各教科の指導内容の吟味と指導方法の工夫（何を学ぶのか）（どのように学ぶのか）
- ・毎時間の授業における児童の「振り返り」から何が身についたのかを見取る。（何が身についたのか）
→授業者自身の授業評価（身に付けさせたい力が身に付いているのかを確認する。→ 授業改善）

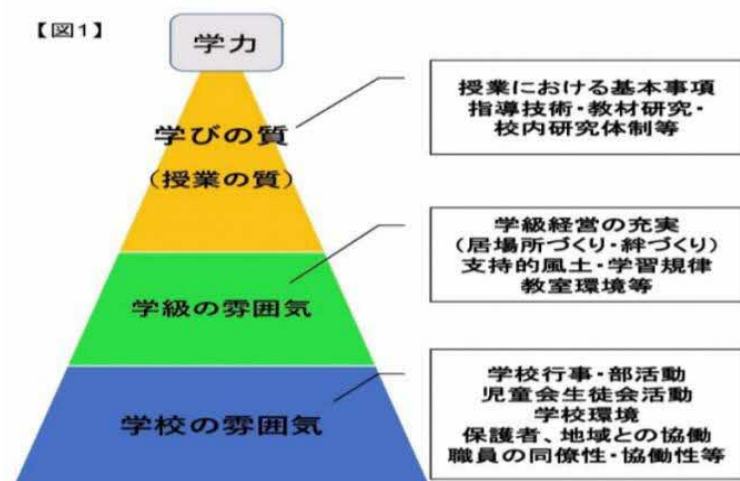
※伊江島スタンダードを通した授業研態をとり、授業者の創意工夫を期待しつつ、「振り返り」を大切にしたい日常的な授業改善につなげる。

◎共通実践事項 2

☆毎日行われている教育活動の価値づけと方向性をそろえる。

1 自己肯定感の高まり	2 学び育ちの実感	3 組織的な関わり
・縦割り班活動の充実 ・学習面からのアプローチ ・児童会活動を中心にした自治的な活動（児童のPDCAを支える）	（知・技） ・授業改善 （思・判・表） ・縦割り班活動 ・交流学习 ・村内での体験学習（地域人材の活用） （人間性） ・個々の目標を見据えた行事の持ち方	・授業改善へ向けたOJTの充実 ・校内研修との連動 ・PDCAのC・Aの充実を図る
取組の重点項目	主な取り組み内容	推進の視点
①自己肯定感の高まり	【授業改善からのアプローチ】 ・伊江島スタンダード（学びあい・聴き合う授業）の推進。 ・「振り返り」を重点にした授業展開を行い、児童自身に「何が身についたのか」を確認させるとともに、自らの授業（身に付けさせたい力が身についているか）の評価の指針とする。 ・各種調査（全国学調/到達度調査/県まなび）の分析を通して実態の把握に努める。	・PPⅡ ・国頭地区学推との連動 ・村学推/校内研修との連動 ・カリキュラムマネジメント
②学び・育ちの実感	・ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた、カリキュラムマネジメントを推進する。 ・同僚性を高め、OJTを推進する。（授業展開、宿題（課題）の出し方、ICTを活用した課題の提示や授業での活用法の模索など） 【学校生活からのアプローチ】 ・「縦割り班活動」の充実。（教師主導ではなく6年生を軸とした活動展開を支援する） ・学校行事の充実（児童会を中心とした自治的活動の展開） ・自己肯定感に繋がる声かけを行う。（PDCAのCの際に、結果だけでなく過程をほめ、Aにつなげる）	・各種検査（テスト等） ・GIGA スクール構想 ・授業公開・互見授業の展開 ・同僚性の構築 ・OJTの推進 ・キャリアサポートの活用
③組織的な関わり	【学力向上からのアプローチ】 ・朝のドリルタイム（漢字・計算）を計画的に実施し基礎基本の底上げを図る。 ・外国語教育を軸とした言語活動を重視した授業改善 ・学習を支える力（学びに向かう学習集団づくり） 授業では、担任対児童、児童相互の「聴き合う」授業を展開する。 参考:学び合い(ペア・グループ学習)の学び方レベル A:相手がどこでつまづいているかを知りアドバイスが出来る。 B:相手から先に話させる C:自分の考えから先に言う	・朝のドリルタイムの設定 ・補習対策 ・OJTの充実 ・読書の推進 ・読書ノート(記録)の活用 ・6・12月(児童職員)へのアンケート実施評価(C)・改善(A)

5. 沖縄県や伊江村の学推との連動について

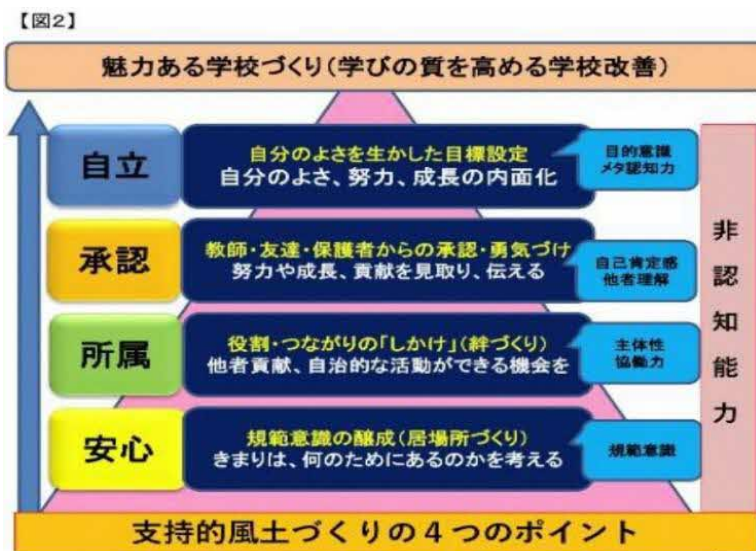


(参考)子どもたちを“座標軸”にした学校づくり ―授業を変えるカリキュラム・マネジメント―

県の資料から、「学びの質を高める授業改善」を実施するにあたっては、学校の雰囲気、学級の雰囲気は欠かせない。(図1) また、支持的風土づくりも重要である。

本校が推進する共通実践事項①、②の推進にあたっては、図1、図2を踏まえ推進していく必要がある。

また、それを実践していくことで本村の施策の1つである、「縦のつながりを通した人間形成」が達成できる。



沖縄県教育委員会 義務教育課「不登校児童生徒への支援の手引き」より

6. 評価の視点

学力向上には、PDCAが欠かせない。よって、共通実践事項に関する評価 (C) を定期的に行い、効果的な取り組みを共有し (成果を共有) と課題については改善策 (A) を検討し計画を練り直す必要がある。

6月と12月に児童、職員アンケートを実施し、取り組みの進捗状況を確認し改善を図る。

◎共通実践事項 1 ☆質的授業改善を基軸に「学びに向かう児童」の育成を図る。

- ・毎時間の授業において「身につけさせたい力を明確化」することができたか。
- ・毎時間の授業において「何を学ぶか」を明確にし、「どのように学ばせるか」検討することができたか。
- ・毎時間の授業において児童に「振り返り」の時間を確保し、何が身についたのかを見取ることができたか。
- ・児童の振り返りから、「身に付けさせたい力」に関する表記や表現が見られたか。

◎共通実践事項 2 ☆毎日行われている教育活動の価値づけと方向性をそろえる。

- ・授業改善からのアプローチに関する評価・改善案等をまとめる。
- ・学校生活からのアプローチに関する評価・改善案等をまとめる。
- ・学力向上に関する取り組みにおいて、児童の自己肯定感の変容に関する評価・改善案等をまとめる。

7. 各種学力調査等の結果

(1) 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果分析報告

様式 1.

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果 分析シート【小学校】

伊江	市町村立	西	小学校	校長名	井口 憲治
----	------	---	-----	-----	-------

全国学力・学習状況調査結果から見られた「児童」の課題の分析・考察【Check】+【Action】 (特に課題の見られた領域・内容等を踏まえて分析すること)

	課題	分析・考察
国語	「読むこと」について、人物像を具体的に想像することができるかどうかをみることに課題がある。(全国差－18.6P)	「原さんが心に残ったこと」を何に着眼しているかを考える問題で、それが「登場人物の気持ちや考え方」に着眼していることをとらえられていない。
算数	「データの活用」について、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみることに課題がある。(全国差－17.8P)	折れ線グラフのデータを見て、ちがいが最も大きい年代がいつかをとらえることはできているが、3月の回数と4月の回数のちがいが何回であるかをとらえることができていない。
児童質問	健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますかにおいて、全国との差が、－4.7Pある。	普段の授業の中で、保健の内容や食育の視点での計画的な授業が実施できていない。「 <u>ちやーがんじゅー</u> 」や「 <u>くわちいーさびら</u> 」の活用ができていない。

「各教科」+「児童質問調査」から見られた「児童」の共通課題 (課題の焦点化を行うこと)

- 読み取ったことをもとに、自分の考えを表現したり、学びを生活に生かしたりする態度に課題が見られる。

目指す児童像

- ・根拠や理論をもとに条件に従って自分の考えを表現できる子。
- ・学んだことを生活やこれからの学習に生かす子。

育成を目指す資質・能力

- ・情報を基に論理的に筋道を立てて考え、目的に合っているかを吟味する力。
- ・学ぶことの意味や価値を認識する力。

学力課題に対する具体的な計画と取組【Plan】+【Do】 (学校全体で組織的に取り組むこと)

キーワード (共通言語)

- 授業における基本事項を意識した授業実践。
- 問いが生まれる授業づくり。
- デジタルワークシートを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践。

- ★基本事項。
- ★問い。
- ★デジタルワークシート。

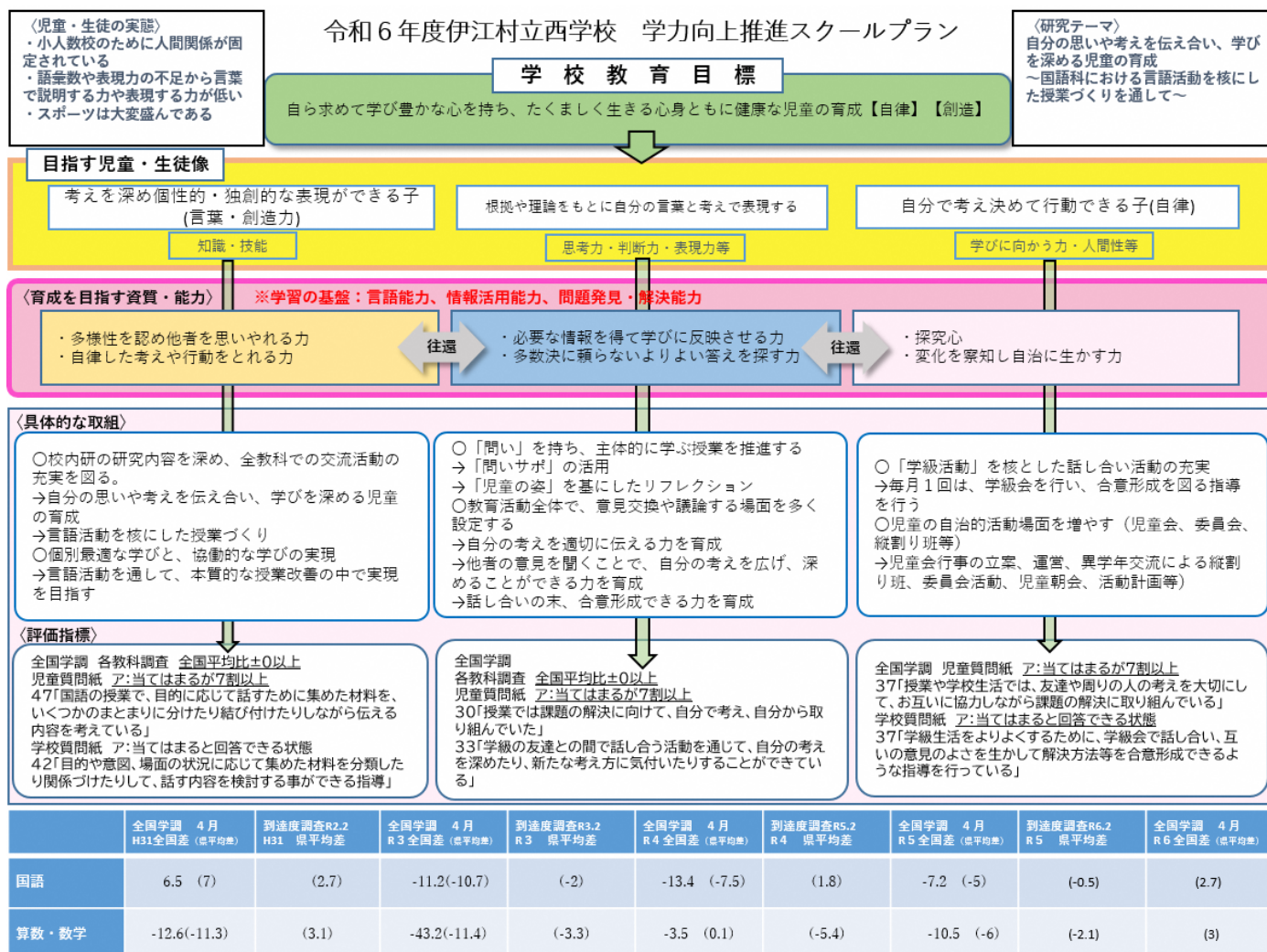
取組に対する指標

- ◇毎週、授業における基本事項の振り返りを行っている教員、90%以上。
- ◇問いを意識した授業づくりの実践をしている教員、90%以上。
- ◇デジタルワークシートを活用した授業づくりができる教員100%。

取組に対する検証・改善【Check】+【Action】

取組状況【11月】	11月時点での修正点等	取組状況【2月】	次年度の取組の方向性
・毎週授業における基本事項の振り返り(100%) ・問いを意識した授業づくりの実践(70%) ・デジタルワークを生かした授業づくり(67%)	・低学年は ICT 支援員を活用し、デジタルワークを生かした授業づくりに取り組んでいく。	・毎週授業における基本事項の振り返り(100%) ・問いを意識した授業づくりの実践(73%) ・デジタルワークを生かした授業づくり(83%)	授業づくりの基本事項をしっかり押さえ、「個別最適化」「協働的な学び」を通して児童の学びをより深めていく。

(2) 学力向上推進スクールプラン分析報告



(3) 魅力ある学校づくり分析報告

1、「魅力ある学校づくりパンフレット」が示す「3 指標」の項目から、特に自校の課題だと思われる指標をお書き下さい。※指標は、「沖縄県児童生徒質問紙調査」と対応しています。「あてはまる」の回答率もお書き下さい。

課題と思われる指標 ※回答率に関わらず、特に自校の課題だと思える指標をお書き下さい	「児童生徒質問紙調査」の「あてはまる」の回答率			
	6月		11月	
	自校	県	自校	県
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	4年 85%	83.8%	76.2%	83.5%
	5年 77.8%	83.8%	95.2%	81.4%
	6年 80%	80.9%	73.3%	80.3%
自分には、よいところがあると思う。	4年 30%	50.6%	23.8%	51.2%
	5年 44.4%	47.6%	38.1%	48.6%
	6年 86.7%	47.4%	53.3%	47.6%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	4年 30%	57.2%	23.8%	57.6%
	5年 61.1%	56.2%	57.1%	54.7%
	6年 53.3%	58%	60%	56.2%

(課題と思われる指標の要因)

- ・いじめの定義の認識がそれぞれ違う可能性あり
- ・「人のよいところ」を見つけきれない→「自分の良いところ」を見つけきれない
- ・ほめているけど個人にあった褒め方(個人、全体) ・ほめられるよりも注意されることが多い

(具体的な対応策) ※学校長の描く「学校ビジョン」を踏まえ、「学校経営計画」等を参考にお書き下さい。

- ・「長所を伸ばす」 「自律(自分で決めて考えて行動する)と創造」
- ・友達の良いところを見つけ、共有する場を設ける ・注意が多い児童に活躍(ほめられる)場をつくる
- ・いろんな先生でほめる場をつくり、共有する ・学級だよりなど文字や掲示物でほめる機会をつくる

(改善後の、目指す児童・生徒・職員・学校の姿)

- ・いじめは絶対だめだという共通認識のもと指導する姿勢を保つ
- ・児童の活躍の場が設けられ、達成感、充実感、自尊心、自己有用感が、高まる
- ・良いところ、がわかり、自分の良いところも見つけられる。それを学級・学校に上げられる
- ・児童のよいところを写真や文で掲示する
- ・子ども同士でもお互いのいいところを見つけられる学校

2, 今年度の成果と課題、課題への取組を、11月「沖縄県児童生徒質問紙調査」等を参考にお書き下さい。

成 果	■課題 ○課題への取組
・どの学年も「あてはまらない」と答えた児童が6月に比べて減少している。「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童が増加している。	■「自分にはよいところがあると思いますか」の項目が低い。○これからも児童の自己肯定感を上げる取り組みを学校全体で行っていく。

【今年度の成果と課題】

- 成果 ① OJT形式による授業改善に向けた研究とフィードバックを行うことで教師の指導力向上と授業改善につながった。
- ② 継続的にキャリア教育を推進したことで児童の目的意識や学ぶ意欲の向上を高めることができた。
- ③ 授業改善や個に応じた指導、補習等により、児童が自分の目標や課題をもって粘り強く学習に取り組む姿勢が育ってきた。
- ④ 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査においては、全職員体制で1人1人の学習状況をていねいに見取りながら指導に関わることができた。継続的な検証改善サイクルを確立し、定着確認問題(CBT)を活用し、PDCAサイクルを確実に実施する。
- ⑥ 伊江島スタンダードをもとに、児童の「問い」を生かした主体的・対話的で深い学びを計画的に授業の中に取り入れる。
- ⑥ 学習支援教諭の効果的な活用により、個に応じた学習指導の充実を図ることができた。
- ⑦ 児童会・委員会活動を中心とした、異年齢集団による縦割り班活動の推進を図ることができた。
- ⑧ デジタルワークシートを活用して授業づくりの推進を図ることができた。
- 課題 ① 授業改善で指導に生かす評価を行い、確かな学力を向上させ児童の学びや変容を自覚させることができるように取り組む。今後も教師主導ではなく、児童中心の授業づくり、授業改善に取り組んでいく。
- ② 各種学力調査等で目標が達成できていない事項について個別指導を徹底する。
- ③ 個人差に応じた支援方法について授業改善や指導方法・体制を工夫する。
- ④ 家庭と連携を図りながら授業と連動した家庭学習の与え方を工夫する。家庭学習の習慣化と内容を充実させる。
- ⑤ 学びに向かう集団づくりを推進するために、児童の自治的活動を大切に学級活動や児童会活動の充実を継続して行う。

8. 学習の支えとなる図書館教育

(1) 学習の支えとなる図書館教育

学校図書館には、主体的な学びを支える多様な資料が豊富で、豊かな心を育む多種多様な図書が蔵書されている。探究的な学習で図書館資料を使い、学んだことを深め自らの考えとしてアウトプットすることで、主体的な学習活動に繋がる。読書をすることで、読解力や想像力が育成され、自らを律しつつ他人とともに協調し他人を思いやる豊かな心を育む。

①「自己肯定感の高まり」・・・図書委員会、国語科と連携した図書室づくり

図書委員として何ができるか、本好きを増やすためにはどうしたらいいか、学校を運営する一員として自ら考え楽しい読書イベントを実施することができた。国語の授業と連携した図書室づくりとして、1年生は『かくれんぼずかん』、4年生は『ふしぎずかん』、6年生は『おすすめ本ベスト3』のポップを作り図書室に展示。手にとることが少なかった本も魅力的に見えて借りる児童が増えた。

②「学び・育ちの実感」・・・国語辞典引き会

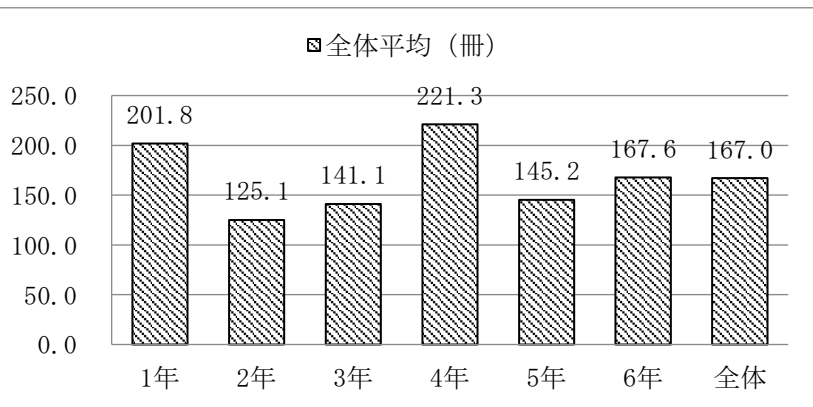
情報化社会の中で確かな情報を得るための情報の探し方や使い方など辞典引きを通して学ぶ。年に数回行う事で自らの成長に気付き、ベストプレイヤー賞として成績だけにとらわれず努力の課程を表彰した。

③「組織的な関わり」・・・幼小連携、ニグスイサークルや先生方による読み聞かせ

幼小連携の取り組みとして、幼稚園児も読書郵便に参加することで小学校の児童・先生方と交流ができた。ニグスイサークルでは読み聞かせボランティアをさせていただいており、保護者だけでなく地域の方にもご協力をいただいている。

(2) 読書活動の現状

①貸出平均冊数（1年間の統計）



【貸出のようす】

- ・高学年は小説などの長編作品をよく読んでいる。
- ・低学年は絵本だけに偏らず、昆虫やスポーツ、料理や工作など様々な分類の本をかりている。
- ・沖縄県の年間読書冊数の平均が110冊なのに対し本校は全体で167冊と大幅に上回っている。
- ・学年によって差があるので、図書室に足を運ぶ習慣づけを指導していきたい。

もの読書活動推進計画（第5次）」により次年度は質を重視した図書館運営を行う。

1年生

順位	冊数	名前
1位	344冊	徳里 文乃
2位	343冊	工藤 叶翔
3位	323冊	古堅 将誠

3年生

順位	冊数	名前
1位	456冊	知念 沙奈
2位	442冊	福原 快
3位	396冊	林 野乃佳

5年生

順位	冊数	名前
1位	382冊	工藤 いこい
2位	302冊	大石 麗
2位	302冊	玉城 華奈紗

2年生

順位	冊数	名前
1位	171冊	比嘉 健二郎
2位	161冊	内間 大琥
3位	159冊	大嶺 煌侑
3位	159冊	林 桃奈

4年生

順位	冊数	名前
1位	324冊	大城 海愛
2位	313冊	松永 玲杏
3位	306冊	大城 愛芭
3位	306冊	島袋 楓愛

6年生

順位	冊数	名前
1位	403冊	内間 奏風
2位	278冊	金城 来渚
3位	226冊	城間 紅葉